

乳がん患者さんの受診に至るまでの2つの特徴

～受診が遅くなった人とすぐに受診した人の比較から～

沖縄県立看護大学 看護学科

大城 真理子

なぜ本研究が必要なのか？

- ・乳がんは早期に発見され、治療効果が得られる場合、長期生存が見込まれます。
- ・しかし、乳がん患者の約3割は乳房の異常に気づきつつも、医療機関を受診するまでに3か月以上の時間を要しています。
- ・乳房の異常に気づいてから3か月以上の受診の遅延は生命予後に影響します。
- ・患者が受診するまでに抱える問題は、治療開始後のプロセスにも影響します。（例：治療中断など）

これまでの研究と何が違うのか？

今まで、諸外国を中心に、乳がん患者さんの受診が遅くなることに関連する要因について検討されてきました。

各国で共通した “遅れ”の要因

不安・恐怖

苦しい経済状況

医療機関との物理的・心理的距離

社会文化の影響を受けた “遅れ”の要因

補完代替療法の利用（中国）

性的な臓器について話をするもののタブー
（イラン）

ヘルスケアシステムの整備が不十分である
（エジプト）

わが国で適切な時期に受診を促す看護介入を確立するためにも、
日本の社会文化を考慮した“遅れ”に関連する要因を知ることが大事。

なぜ量的手法ではなく質的手法を選択したのか？

尺度を用いた質問票を、今までの研究で示された“遅れ”の要因を踏まえて作成し、実際に乳がん患者さん（16人）に調査を行いました。

しかし、患者さん達から「質問内容が自分たちの実情に見合わない」などの意見がよせられました。

調査の失敗

まずは、日本の背景を踏まえた“遅れ”の実情を患者さんの経験から理解する必要がありました

この研究で調べたいことは？

受診が遅くなってしまった乳がん患者さん※と、すぐに受診をした乳がん患者さん※の乳房の異常に気付いてから医療機関を受診するまでの経験を明らかにし、両者を比較することです。

言葉の意味※

受診が遅くなってしまった患者さん（以下、遅延者）

：患者さん自身が受診が遅くなったと認識している

すぐに受診した患者さん（以下、非遅延者）

： “ すぐに受診したと認識している

研究の概要

- ・ 2か所の乳腺外来で調査を実施しました。
- ・ 対象とする乳がん患者さんは、外来看護師から紹介してもらいました。
- ・ 研究の参加に同意してくださった乳がん患者さんを研究者が1対1で、1時間くらいの下記のインタビューを行いました。

- ✓ 受診を決めた理由はなにか
- ✓ 受診をするうえで妨げとなることはあったか
- ✓ 何が受診を促したのか

研究参加者の概要

研究参加者の内訳は、遅延者9人、非遅延者12人でした。

- ・年齢：40～70歳代

- ・遅延者の約9割が、異常に気づいてから医療機関を受診するまでに「3か月以上」要していました。

- ・非遅延者の全員が異常に気づいて「1か月未満」で医療機関を受診していました。



今までの研究で、受診の“遅れ”と意味づけされている

異常に気づいてから受診するまでに「3か月以上」の時間の経過について、患者さん自身も受診が遅れたと認識していることがわかりました。

乳腺外科を受診するまでのプロセス

・ 遅延者と非遅延者で乳腺外科を受診するまでの流れが違う

	遅延者（9人）	非遅延者（12人）
乳がん検診の受診状況	全員が乳がん検診を受けたことがありませんでした。	乳がん検診を定期・不定期に受診していました。
異常に気づいたきっかけ	全員が自分で乳房の症状に気づいていました。	「自分で症状に気づいた」、「乳がん検診で指摘された」の2通りがありました。
異常に気づいた際の相談	乳房の異常に気づいても誰にも相談をしていませんでした。	半数の患者さんが、友人・家族に、乳房の異常について相談をしていました。
受診のきっかけ	症状の悪化を機に受診に至っていました。	患者さんの一部は、他者への相談を機に、他者からの介入を受けて受診に至っていました。

なぜすぐに受診をすることが出来なかったのか？

1. 遅延者は不安や恐怖に対して、すぐに問題に向き合うことが出来ませんでした

	語り	サブカテゴリ
遅延者	<ul style="list-style-type: none">・リンパをごっそり取るのが怖かった。いつも心の中で思っていて自分で（病院に）行かなかった（ID1.5）・テレビでも色々言われているじゃないですか。あんなのも見ないようにしている（ID1.8）・家系的にはがん家系だよ。でも、自分は違うって思いたかったっていうのが一番の理由（ID1.2）	不安や恐怖がある
非遅延者	<ul style="list-style-type: none">・怖かったですけど、もうあきらめですよ。よし頑張ろうと（ID2.12）・怖かったんだけど、覚悟を決めて（病院）に行った（ID2.3）	不安や恐怖に対処する

2. 遅延者は、生活において様々なことが重なり、病院を受診したくてもできない状況にありました

	語り	サブカテゴリ
遅延者	<ul style="list-style-type: none">・今を生きることを先決にしましたので。夜の仕事をし、昼は認知症の母をみて、主人も父も亡くなって。お家のことがありすぎて、自分のことは、もうとにかく生きていればいいという。(ID1.7)・母1人、子1人なもんで。もう無理をして、仕事をしていたんですよ。やっぱり生活のことが第一と思って。病院に行ったら、お金もかかりますよね、その余裕もなくて、もうどうしていいのか分からなくて、そのまま過ごしていたんです。(ID1.9)	目の前の生活を優先しなければならぬ
非遅延者	<ul style="list-style-type: none">・息子達もお父さんも、絶対に大丈夫だよって言うてくれるので。(ID2.10)・一番心配するのは、経済的な面ってというのが不安にあると思うんですけど、生命保険とかも入っていたから、(治療費の支払いは)何とかなるかなって。(ID2.7)	健康問題と向き合える

3. 遅延者は乳房の異常に気づいても誰にも相談をせずに、心配事を一人で抱え込んでいました

	語り	サブカテゴリ
遅延者	<ul style="list-style-type: none">・相談はしないよ、自分でがんなんだろうなって思っていただけ (ID1.2)・自分のことは自分でしないと迷惑がかかるから、誰にも言わなかった (ID1.5)・主人も亡くなった後で相談する人もいなかった (ID1.7)・生活もかかっているし、言いたくても言えないんですよ (ID1.9)	乳房の異常について誰にも打ち明けない
非遅延者	<ul style="list-style-type: none">・主人にすぐ言って、そのまま病院に行って。いろいろ病気について調べたり、主人がしていました (ID2.1)・友人とか兄弟とかに電話しまくって、それで、早めに病院に行った方がいいよとかいろいろ聞く (ID2.8)	乳房の異常について身近な者に打ち明け、家族・友人から情報を得る

4. 遅延者は、医療機関との物理的・心理的距離を感じていました

	語り	サブカテゴリ
遅延者	<ul style="list-style-type: none">・ 離島では専門の病院がなくて、受診をしていなくて。(ID1.1)・ (以前、医師に) 異常もないのに、来てどうするのって言われたから、そういうのを何回か経験すると、受診ってなった時、どこに行けばいいのって。(ID1.3)	医療機関と距離がある
非遅延者	<ul style="list-style-type: none">・ 最初に病院を受診したのは、やっぱり、安心したかったからですかね。(ID2.7)・ 自分は素人じゃないですか、だから、分からないんだったら、専門の所に行ってアドバイスを受けることが一番楽かなって思って。先生に見てもらって、今の自分の状況を詳しくは知りたかった (ID2.10)	専門家を信頼し、受診により安心を得る

受診を促したのはなんだったのか？

1. 遅延者、非遅延者ともに、受診を後押しした他者の存在がありました

	語り	サブカテゴリ
遅延者	<ul style="list-style-type: none">・周りの人とかから、殆どの方がおっぱい全部取っているのに大丈夫さっていう話も聞いて、手術をしてもちゃんと生活をしている人の話を聞いて、病院に行こうっていう踏ん切りがついたっていうのもあるね。(ID1.5)・病院に行かないといけなくなって迷って。内科の先生にしこりがあるからっていうことで、どこの病院で受けようかって迷って聞いたら、こちらを紹介されました。(ID1.8)	他者の介入が受診の迷いを断ち切る
非遅延者	<ul style="list-style-type: none">・(しこりがあることを)長女に話したら、健康診断を他で受けるよりは先に乳腺外科を受診してみせたらってことを言われたんですね。(ID2.2)・主人が受診しとけって言うから。(ID2.4)	周りが受診を促す

この研究を通して考えられる支援

- ・ 乳がん患者さんが、乳房の異常に気づいた際に、**周りの者に相談し、第3者と一緒に健康問題に向き合うことは受診を促す可能性**があることがわかりました。
- ・ 医療者が、受診が遅れそうな患者さんの傾向（例：苦しい生活状況にある等）を知ることで、「心配事はないですか？」などのちょっとした声かけなどで、早めの受診のサポートが出来るかもしれません。